

(別紙)

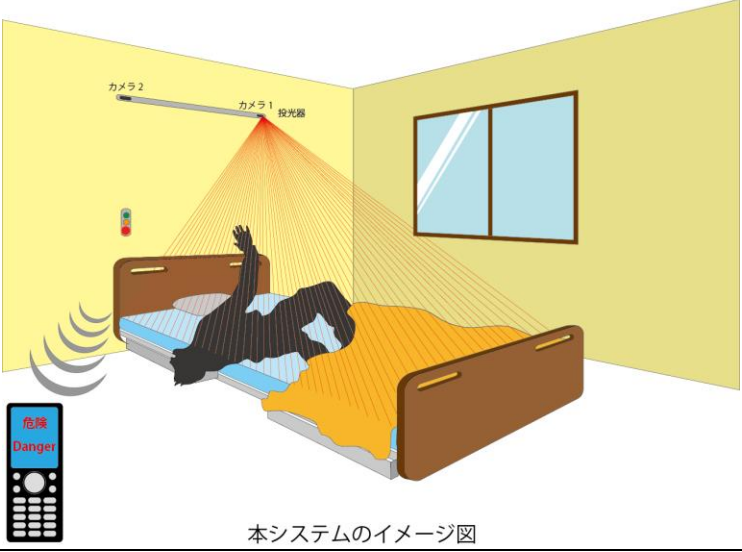
平成 25 年 11 月 15 日

アドバイス支援（試用評価）依頼概要書

1. 依頼者の概要

事業者名	株式会社アイデアクエスト		
担当者名	松井宏樹		
担当者連絡先	住所	東京都大田区羽田空港 1-1 1-1 アイデアクエスト	
	電話	03-6459-9776	
	電子メールアドレス	Matsui.hiroki@ideaquest4u.com	
主たる業務	医療福祉機器の開発製造販売		
主要な製品	基礎医学研究機器（赤外線呼吸情報収集・分析装置（成人用・乳幼児用）、赤外線咽頭気管運動分析装置） 開発製品（成人用呼吸機能診断装置、新生児・乳幼児用呼吸機能評価装置、摂食嚥下機能評価装置、認知症患者用ベッド見守り装置、トイレ見守り装置、浴室見守り装置）		
希望する施設等の種類、職種	認知症患者を拘束しないで入院させている病院、老健施設、特養等。 （サービス付き高齢者向け住宅等を含む。）		
アドバイス（試用評価）機関の所在する地域希望	関東地区が望ましいが、ご協力いただける施設・病院であれば、地域は問いません。		
その他			

2. 試作機あるいは機器開発コンセプトの概要（可能な範囲でご記入ください。）

機器の名称（仮称）	OWL-SIGHT
機器の写真あるいはコンセプトイメージ	 <p>本システムのイメージ図</p>
機器の目的及び特徴	認知症の方のベッド上における大きな姿勢変化や離床・微小体動等が検出されない場合に、人工知能を利用し、「危険・安全・要確認」に分類判断し、危険情報を介護者に緊急通報する。
想定する使用者	被介護者：ベッドからの転倒転落が懸念される認知症の方 介護者：病院の看護師、特養・老健・サ高住等の介護士等
想定する使用方法や使用環境	センサは、認知症患者の手が届かず見つけにくい天井、壁上部に設置する。患者の生活は全く影響を受けない。 介護者は、ナースコール等で、スマートフォン等で、「危険」「要確

	認」情報をキャッチ、モザイク画像等で現場の状況を確認のうえ、現場に駆けつける。
開発に至った背景	今回の募集テーマに関し、過去に慶應義塾大学中島研究室で行ってきた、「トイレ」内でのニューラルネットワークを活用した、「異常事態発生検知通報システム」と、ベッド上の呼吸を含む微小体動検知通報技術を複合・融合したシステムとして開発を決断したもの。
現在の開発状況	試作機は完成し、10 パターン程度の危険・安全・要確認姿勢を学習させたモデルが完成。今後、介護現場での危険姿勢の事例を収集し、ニューラルネットワークでの学習を蓄積、判断の精度を高めた実用可能な機器とすべく準備中。
現在の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 現在当社が設定している「安全」「危険」「要確認」の姿勢判断が、専門家からみて、適正かどうかの判断 2 認知症患者の危険姿勢のパターンとして、当社としては、現状危険と想定していない姿勢の中で専門家から見て、「危険」又は「要確認」と判断すべき姿勢がないかの情報提供。
アドバイス（試用評価）をしてほしい事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 危険姿勢・又は要確認姿勢の閾値となる姿勢の妥当性 2 通報すべきタイミングの妥当性 3 当社が想定していない危険姿勢がないか
その他	宜しくお願い申し上げます。